

体協スポーツニュース(仮)

創刊号 2005年1月

編集・発行
 特定非営利活動法人
 塩釜市体育協会

〒985-0075
 宮城県塩釜市今宮町9-1
 TEL 022-362-2101
 FAX 022-362-1099
 メールアドレス
 塩釜市体育館 npostk-t@c-marinet.ne.jp
 塩釜市温水プール npostk-p@c-marinet.ne.jp

『塩釜市民のために』をモットーに



特定非営利活動法人 塩釜市体育協会
 会長 菅原周一

一方で青少年教育の重要性が唱えられ、他方では生涯教育が叫ばれる。もちろん、幼児教育については言をまたない。まさに、教育論、百家争鳴である。青少年教育、生涯教育いずれにおいても、その大きな柱のひとつはスポーツである。スポーツの振興によって、健全な精神が育まれる。塩釜市民のスポーツの殿堂、塩釜市体育館並びに温水プールに健全な市民育成のための精神を吹き込み、市民が共に参画できるように塩釜市体育協会でありたい。

市民の方々に、広く特定非営利活動法人塩釜市体育協会を理解していただくために、協会の事業方針を本誌上で詳しくおきたいと思っております。当協会の定款第3条に事業方針が次のように規定されています。

第3条
 『塩釜市民に対してスポーツ振興に関する事業を行い、市民の生涯スポーツ活動やスポーツ少年団の育成に寄与し、またスポーツの主体である市民がスポーツ並びにスポーツ事業を営むことに対して、積極的に参画できる環境を整えることを目的とする』

私たちは、市民の方々が生涯健康で、心豊かに過ごすために、年齢や性別にとらわれ、ことなくスポーツに興じ、体位の向上とリフレッシュやリラクゼーションの場として、気がねなく体育館並びに温水プールを利用していただくとともに、市民の方々の期待に答え、信頼される体育館になるために、バランスシートや適正な使用料、開館の稼働率など、事業推進のアクセスメント(評価)を導入し、多様化した市民のニーズと市民意識にマッチしたキメ細やかな開館運営や積極的な広報を通して、体育館並びに温水プールが市民のスポーツの振興とともに福利厚生の場として真に機能し、身近に感じられよう努めてまいります。

そして、私たちは市民に愛され、市民に必要とされる体育協会を目指し、協会の運営には進取な精神で自発的積極的に参画し、常に創造性を発揚しながら、すべては『塩釜市民のために』をモットーに取り組んでいく所存であります。

最後に、市民の方々には、特定非営利活動法人塩釜市体育協会の運営にご理解とご協力をお願い申し上げます。更に一層の厳しい視線でのご指導賜りたいものと思っております。

蕪辞ではありませんが、協会機関紙発刊のご挨拶とさせていただきます。

船に乗ってウォーキング!? ~浦戸 in ウォーク~



↑自然の中をウォーキング。新緑に囲まれて気分も爽快!!

船には、169名が乗っていた。その船の中でみんなは期待に胸を膨らませていた。さあ、小さな冒険が始まる。

平成16年5月23日(日)マリゲート塩釜には、小さな子供からおじいさん、おばあさんまで幅広い年齢層の人々が集まっていた。船に乗り込むと、デッキに出て海をのぞいたり、景色を眺めたり、カモメとたわむれたり…。なかなか見ることのできない、船からの塩釜。船は、ゆっくりと動きました。

着いた先は、浦戸諸島の寒風沢。海の「青」と木々の「緑」、花々の「白」や「赤」「黄」が入り混じり見事な自然のコントラストを描き出していた。参加者は、その緑の中に吸い込まれるように歩き出した。

そこは、私たちが知っている「道」とは違っていた。車の排気ガスに包まれた「道路」ではなかった。虫たちが飛び、花が咲く。蝶やミツバチが行き交い、参加者を歓迎してくれているかのように見えた。

時々出会う島の人々は、とても暖かく話しかけてくれた。ゆっくりと自然の中に溶けてゆく…。

寒風沢を一周すると、小さな舟が待っていた。隣の島まで乗せて行ってくれるという。さっそく舟に乗せてもらった。最初に乗った船とは違い、水面にもさわれそうなくらい近い。思わず、海をのぞき込む。「魚はいるかな?」

あつという間に、野々島に着いた。野々島をぐるりと歩いてくると、みんなが何か食べている。「いいにおいだ!」それは、浦戸諸島で採れたアサリを使った「アサリ汁」。島のお母さんたちが作ってくれていた。「どうぞ。」差し出されたおわんには、アサリがたっぷり!! ちよつと汗をかいた体にアサリ汁が沁みてゆく。さあ、頑張るぞ!!

また小さな舟に乗り込んで石浜へ。海水浴場を抜けて神社で足を止めた。長い上り坂を登ると、そこからの眺めは絶景だった。海に浮かぶ島々。しばらく息をのんでたずんでいた。

帰りの船の中。参加者は冒険の終わりを惜しむかのように「とっても楽しかった。」「景色がとっても良かった。」「また参加したい。」と話していた。



飛び交うカモメ、道のあちこちに咲く野花、自然の生き物たち。『浦戸 in ウォーク』で、自然に溶け込み、ゆっくりとした時間を楽しんだ参加者は、明日への活力を見出したに違いない。



↑船のにおいと、行き交うカモメに期待も膨らむ。

浦戸 in ウォークは、豊かな自然が残る浦戸諸島をウォーキングしながら自然とふれあい、参加者と地域住民とのコミュニケーションを図ろうと浦戸 in ウォーク実行委員会と当協会、加開団体協会員および浦戸諸島の住民の方々が企画・運営した。

浦戸諸島は、日本三景松島の湾内に点在する桂島野々島寒風沢朴島の4つの島からなっている。島々には、様々な伝説や歴史、そしてそれらが残した貴重な遺跡や史跡が点在している。